

授業科目名： 地球環境学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村中孝司 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人文地理学・自然地理学		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人類が現在直面している地球規模の環境問題から、身近な生活環境の問題、生物多様性問題について、人間社会の視点から学び、人間社会の発展と地球環境の保全の両立をどのように考えていけばよいか理解することを目標とする。</p> <p>到達目標として、以下の3点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境と人間社会の関係を対峙するものとみなすか、共生すべきもののみならずか考え、持続可能な社会の構築のために必要な知識と考え方が定着できている。 2. 自然環境の社会科学的価値を検討し、環境開発行為、生物多様性の損失などによる問題点の定量化ができる。 3. 日本が抱える食やエネルギーの問題を理解し、地球環境問題の視点に立って、これからの日本社会のあり方を主張できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>2011年、世界人口は70億人を突破した。一方、地球上の資源には限りがある。私たち人類はその限りある資源の中で生きていかななくてはならない。講義では、地球環境問題、生物多様性、農業問題など、人間生活や社会に密接に関わりのある環境問題について紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 豊かさと環境問題</p> <p>第2回：公害と環境問題の歴史 産業革命と工業化、公害、大気と水</p> <p>第3回：地球温暖化 地球温暖化の原因と影響、フィードバックループ</p> <p>第4回：オゾン層破壊 オゾン層の生成と消失、フロン類、人体や自然界への影響</p> <p>第5回：酸性雨・酸性霧・酸性雪 酸性雨の原因と影響</p> <p>第6回：水質汚濁と化学物質汚染 富栄養化、農薬・除草剤、重金属類、海洋汚染、生物濃縮</p> <p>第7回：砂漠化と森林破壊 農業形態のあり方の変化による土地の劣化、過放牧、過耕作</p> <p>第8回：生物多様性 生物多様性とは何か、生物多様性の階層</p> <p>第9回：生物多様性を脅かす3つの要因① 開発・乱獲、分断・孤立化、管理放棄</p> <p>第10回：生物多様性を脅かす3つの要因② 外来生物の侵入による影響、生態系サービス</p> <p>第11回：環境の修復と環境アセスメント 自然保護制度、回避・低減・代償、アセスメントの実態</p> <p>第12回：環境価値の評価 環境の経済的価値</p>			

第13回：エネルギー問題 化石燃料エネルギー、自然エネルギー

第14回：循環型社会の構築 里山の利用、3Rとゴミ問題、ライフサイクルアセスメント

第15回：世界人口と食料問題 食料自給率、フードマイレージ

定期試験

テキスト

植田和弘・大塚直『環境と社会』放送大学

参考書・参考資料等

御代川貴久夫『環境科学の基礎（改訂版）』培風館

日本生態学会編『人間活動と生態系（シリーズ現代の生態学3）』共立出版

学生に対する評価

【定期試験（60%）、レポート（30%）、授業中の課題（10%）】

上記評価項目を基にして総合的に判断します。